

モンゴル語の形状語に関する記述的研究

ヤマアキフー バダムハンド
YAMAAKHUU BADAMKHAND

大阪大学外国語学部 非常勤講師
(現 日本学術振興会外国人特別研究員)

緒 言

モンゴル語の形状語研究は、モンゴル国では立ち遅れており、当地で出版されたモンゴル語辞典の最新版ですら、例えば、ある形状語(形状動詞)の意味を記述する際、その同一語幹をもった派生語(形状名詞)で説明しており、何ら十分な説明がなされておらず、形状語を記述研究の対象として見る意識が十分に見られないことがうかがい知られる。ましてや、日本におけるモンゴル語の形状語研究も、このような不明瞭で不完全な記述の資料しか利用できなかったため、その調査・研究は本格的に行われてこなかった。このような現状を打破すべく、今回の「モンゴル語の形状語に関する記述的研究」は、従来の研究成果を再度逐一検証した上で、今後のモンゴル語の形状語に関する記述的研究に不可欠な視点を、今回新たに指摘するとともに、それらの一部を例証することによって、今後のモンゴル語の形状語に関する一連の研究に対し、さらなる一定の方向性を提示することを目標とするものである。

研究の現状

現代モンゴル語で「形状語」とは、一般に(1)CVC・CVй-(Cは子音、Vは母音、Vйは二重母音、一部長母音を含む)の形式をもち、(2)人や物の形や状態を表す意味をもつ一群の「形状動詞」及び、それらからほぼ規則的にCVC・C(V)гVрの形式で派生される「形状名詞」の両者の概念を含むものである。例えば、

「形状動詞」 「形状名詞」(派生語)

бамбай-《ふっくらしている》> бамбагар《ふっくらした》

гонзой-《細長くある》> гонзор《細長い》

цундий-《腹が突き出ている》> цундгар《腹の突き出た》

ここでは、形状語の見出し語(「形状動詞」として3例のみを挙げたが、現代モンゴル語の全形状語総数は、500語余りと考えられ、そのうちのほぼ3分の1に相当

する160語を、博士論文『モンゴル語の形状語に関する研究』(2010)で取り扱い、考察分析の対象とした。筆者の博士論文(2010)の論旨の中心は次のとおりである。すなわち、「個々の形状語を単独のものとしてばらばらに捉えるのではなく、とりわけ「家族形状語」に対しては、あくまでも構造を成す体系の中で捉えるよう「立方体」を用い、弁別される意味成分を明確にするとともに、さらに「イメージ図」も作成することで、漠然とした抽象的概念をより具体化し、視覚的に訴える工夫を施す。」

例えば、従来の研究では、A) бамбай-, бэмбий-, бөмбий-《ふっくらしている》の3つの形状語とB) бөндий-, бөнжий-《まるまるしている》の2つの形状語は、それぞれ別個の形状語として、前者A)は、母音交替a~э~ө、後者B)は子音交替д~жにより、漠然と類義の意味を表示するにだけ解されてきたが、筆者は、これらA)、B)を区別せずに、[ふくらむ(大きい)]という共通した意味特徴を有する、「家族形状語」(形態的なつながりを基本とし、意味的にも共通特徴を有する一群の形状語)とみなし、あくまでも「形態及び意味構造を成す体系」の中で捉えるよう理論化を試みた。その一例は次のとおりである。

家族形状語

БАМБАЙ- [体の全体または一部(体つき、顔、唇など):

大きい、厚い、ふくらむ] (Jap. 「ぶくぶく」、「ぼてぼて」)

→ 母音交替(a~э)

БЭМБИЙ- [体の一部:

大きい、やわらかい、ふくらむ] (Jap. 「ふっくら」)

→ 母音交替(э~ө)

БӨМБИЙ- [物の表面:

ふくらむ、まるい、半球] (Jap. 「ふっくら」/「半球形の」)

→ 子音交替(б~д)

БӨНДИЙ- [体の全体:]

ふくらむ、まるい、かわいい] (Jap. 「ころころ」、「ころっ」)
→ 子音交替 (д ~ ж)

БӨНЖИЙ- [物:]

まるい、かわいい、小さい] (Jap. 「ころっ」)

以上の形状語の形態及び意味構造を図示すれば、次のようである。

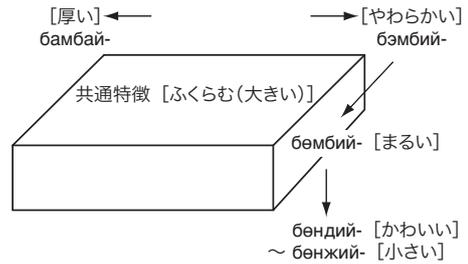


図1 第1グループ《大きい(太い、厚い、広い)》の家族形状語



図2 第1グループの家族形状語のイメージ図

研究方法

研究方法は、大きく (1) 現地調査と (2) 資料収集の二つの方法からなる。

(1) 現地調査は、2011年8月22日～9月23日と2012年2月21日～3月23日の二度にわたり、モンゴル国の首都オランバートルを中心に、形状語に関する聞き取り調査を、直接対面形式で実施した。

また、(2) 資料収集は、モンゴル科学アカデミー出版の最新の『モンゴル語詳解辞典』5巻本 (Шинжлэх Ухааны Академи Хэл Зохиолын Хүрээлэн: *Монгол хэлний дэлгэрэнгүй тайлбар толь I-V*, Улаанбаатар, 2008.) の入手およびモンゴル文学作品等の広範囲な資料収集という形で行った。

研究結果

今回の研究によって得られたモンゴル語の形状語に関する研究の新たな視点は、次の三点である。

1. 形状語の多義性 (意味論的観点から)

従来の形状語の意味記述に関しては、その大半が一義的であったが、今回の現地調査及び入手・収集した資料を基に詳細に分析した結果、多義的であるものがいくつか存在することが明らかとなった。

その一例を挙げると次のようである。

МЭЛТИЙ-

[I. 場所(平原など): 広い、平ら、無限 <基本概念>]

[II. 液体(水、涙など): 多い、満ちる]

[III. 目: 大きい、突き出る、まるい]

→ (共通特徴) [大きく広がる、満ちる (いっぱいになる)]

cf. 対応する日本語のオノマトペまたは表現

I. 「広々とした」、「見渡す限り」、II. 「なみなみ」、「うるうる」、III. 「ぐるぐる」、「ぱっちり」

<例 I >

Үүр гэгээрч, орчин хавь тавиусан холх газар мэлтийн цэмцийнэ.

夜が明けて、視界が開け、はるか遠くが広々としてきれいだである。

<例 II >

Дондог царсан аяга дүүрэн архи мэлтэлзүүлэн барьж ирээд, аманд минь ойртуулав.

ドンドグは、壺のお椀一杯に酒をなみなみについで持ってきて、私の口元に近づけた。

<例 III >

Гэвч алаг бяруу гөлийсөн том нүдээр мэлтийтэл харахаас өөр ямар ч хариу өгдөггүй байлаа.

でも、まだらの二歳の子牛は、じっとした大きな目をぱっちりと見開いてみる以外、どんな反応も常に示さなかった。

2. 形状語の転義性（意味論的観点から）

従来の形状語の意味記述では、専ら形状語の原義のみが取り扱われたが、今回の調査の結果、転義としても使用される例がいくつか存在することが明らかとなった。

その一例を挙げると次のようである。

АРЗАЙ- (原義)

[I. 物の表面:なめらかでない(凹凸) <基本概念>]

[II. 髪:逆立つ]

[III. 歯(くしの歯なども含む):不ぞろい]

→ (共通特徴) [なめらかでない(凹凸)]

cf. 対応する日本語のオノマトペまたは表現

I. 「ざらざら」、II. 「ぼさぼさ」、III. 「ぎざぎざ」
(原義、例III)

Чин И сайд ямбаныхаа хувцсыг өмсөөд үүдэн дээрээ хүлээж аваад, арзгар урт шүдээ ярзайлган, нүдээ жартайлган инээж ...

チン・イ高官は、特権階級の服を着て、門の前で出迎えて、ぎざぎざの長い歯をむき出し、目を細めながら笑って ...

以下は、今回の調査で明らかとなった部分である。

(転義)

[I. 感覚:1. 悪寒で体が震える様子、2. 恐怖で気持ちが震える様子]

[II. 行為:1. 他人がいやらしく笑う様子、2. (上の者が下の者に対し) 叱る様子、3. 人がふざけたりおどけたりする様子]

[III. 俗語:暮らし向きが悪い様子(専ら арзгар の形で)]

cf. 対応する日本語のオノマトペまたは表現

I. (1, 2ともに) 「ぞくぞく」、「ぞくつ」、
II. 1. 「にやにや」、2. 「がみがみ」、
III. 「火の車」、「ぴーぴー」、「あっぷあっぷ」

(転義、例 I 1)

Бие арзайгаад байна. Нэлээн халуунтай байгаа юм шиг. 体がぞくぞくしている。かなり熱があるようだ。

(転義、例 I 2)

Энэ дууг дуулахтай зэрэг миний үстэй толгой арзайх шиг болоод явчих юм.

この音を耳にするや身の毛がよだつ思いがするんだ。

(転義、例 II 3)

Хөөе, та нар арзганалдаад байлгүй, ажлаа хийцгээ.

おい、おまえたちはふざけていないで、仕事をしろ。

(転義、例 III)

Амьдрал арзгар байна.

私の暮らしはまるで火の車だ。

3. 形状語の複合性（統語論的観点から）

従来の形状語の研究対象は、専ら単一形式(形状語が単独で用いられるもの)に対してであったが、今回の研究で複合形式と呼ばれるものが存在することが明らかとなった。

形状語の複合形式には、次のものがある。

a. 一種類の形状語を反復して用いるもの

ганагар ганагар (алхах) 胸を張って堂々と(歩く)
(< ганай- 胸を張っている)

маадар маадар (алхах) 自信满满でにんまりと(歩く)
(< маадай- 自信满满である)

b. 二種類の形状語を連語(хоршоо үг)として用いるもの

хонхор хотгор газар くぼんだ土地

(< хонхой-, хотой- へこむ)

овгор товгор газар 隆起した土地

(< овой-, товой- 突き出る)

考 察

研究結果の2. 形状語の転義性で取り上げた形状語 АРЗАЙ- に関し、ここで再度考察してみよう。

筆者は、博士論文(2010)の中で、上記の形状語を、第6グループ《なめらかでない(凹凸)》の家族形状語と見なし、以下の形態及び意味構造をもつものとして位置付けた。

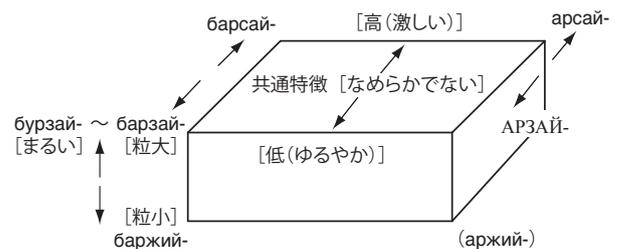


図3 第6グループ《なめらかでない(凹凸)》の家族形状語

さて、今回の研究調査で得られた結果を、再度必要箇所のみを取り上げ、提示すると次のようである。

АРЗАЙ- (原義) [III. 歯:不ぞろい] (Jap. 「ぎざぎざ」)
→ (転義) [II. 行為:1. 他人がいやらしく笑う様子]
(Jap. 「にやにや」)

さらに、同論文で、第15グループ《醜い》の家族形状語として、以下のように位置付けた。

ЯРЗАЙ- [歯:見せる、醜い] (Jap. 「につ」、「歯をむ

き出す)』

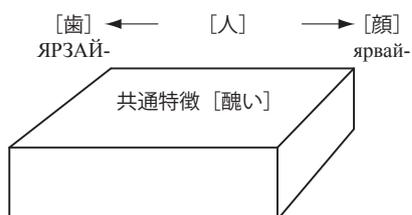


図4 第15グループ《醜い》の家族形状語

すなわち、筆者は、従来形状語 AP3AY- と ЯP3AY- は、それぞれまったく異なる形状語を形成するものと考えてきた。

しかし、今回の意味の転義を含めたより詳細な意味記述の結果、両者は、一つは a ~ я (モンゴル文語では、a ~ i) の交替によって形態的なつながりを、もう一つは [歯: 不ぞろい (凹凸) である / 醜い] という意味成分の類似性により、意味的にもつながりをもつ可能性があり、両者は、究極的には起源的に結びつく公算が大きいと言えよう。

結 語

以上、本研究から得られたモンゴル語の形状語の記述的研究に関する今後の新たな視点は、意味論的観点から 1. 形状語の多義性、2. 形状語の転義性、さらに統語論的観点から 3. 形状語の複合性の三点であることが、今回明らかとなった。

まず前者の二点は、形状語の意味記述に関する重要な

問題であり、今後、さらに家族形状語を認定したり、形状語の起源や派生関係を決定する上で、より一層不可欠な視点となるであろう。

また後者の一点は、形状語の研究対象を単一形式から複合形式へと拡大させることで、形状語の使用例がもれなく抽出できることになり、モンゴル語の形状語の実態をより正確に把握する上で、これまた重要な視点であろう。

今後は、今回の研究で得られた結果を十分に踏まえながら、モンゴル語の形状語の記述的研究に関する調査研究にさらに邁進していく所存である。

謝 辞

本研究は、公益財団法人三島海雲記念財団による平成23年度学術研究助成を受けて実施した研究成果であり、ここに記して心から深く感謝の意を申し上げます。

参考文献

- 1) Badamkhand, Ya. : 「モンゴル語の形状語の言語学的特徴について —一部日本語のオノマトペと比較して—」, 『日本モンゴル学会紀要』 第38号, pp.3-17, 2008.
- 2) Badamkhand, Ya. : 『モンゴル語の形状語に関する研究』 大阪大学言語社会学会博士論文シリーズ Vol.52, 218p., 2010.
- 3) Badamkhand, Ya. : Монгол хэлний дүрслэх үгийн бүтцийн онцлог, ОЮУНЫ ХЭЛХЭЭ No. I (06), pp. 205-213, Улаанбаатар, 2010.
- 4) Шинжлэх Ухааны Академи Хэл Зохиолын Хүрээлэн : Монгол хэлний дэлгэрэнгүй тайлбар толь I—V, Улаанбаатар, 2008.